

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮別所小】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)複数の情報を関連付けて読み解き、自分の考えを根拠とともに説明することができる資質や能力 (2)学習のゴールを意識し、到達度を自己評価できる資質や能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)教科横断的に単元を構成し、図や表、数値など複数の情報を比較したり、関連付けたりする活動を日常的に取り入れていく。 また、発表の場面では、児童が自分の考えを説明する際に、理由や根拠を明確に示し、筋道を立てて言語化することを重視する。 【単元ごと】 (2)「学びのシンキングサイクル」を活用し、見通しをもつことができる授業を展開する。振り返りには、学びメーターを活用し、 「本時の授業に対して自分は何ができるようになったのか」「次時への疑問」等、観点を示す。【単元ごと】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題	④結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	・国語では、「話の構成を考える」「文章の特徴を捉える」などの領域に強みが見られる。一方で、重点的に育成する資質・能力である「複数の情報を関連付けて読み解き、自分の考えを根拠とともに説明する力」に関する問題である「集めた情報から必要な内容を抜き出し、考えが伝わるように書く」といった記述式問題の正答率は35%にとどまっている。 ・算数では、基礎的な数の構成に関する問題や、日常場面をもとに時間を計算する問題、理由を説明する一部の記述式問題において、県平均・全国平均を上回る成果が見られた。しかし、「変化と関係」の領域(正答率約36%)では、特に立式する力や図の意味を読み取る力に課題が見られる。また、基本的な図形の公式の定着にも懸念がある。 ・児童による学びの振り返りに関する質問事項(2項目)については、いずれの質問においても肯定的な回答の割合が85%を超えていた。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・国語においては基礎的な知識や理解は比較的に定着している一方で、複数の情報を関連付けて考えたり、必要な内容を抜き出して答えたりすることに課題がある。 ・算数では、基礎的な内容の定着や立式や図からどういったことが質問されているのかについて読み取ることに課題がある。 ・多くの児童が学習した内容について、次の学習につなげたり実生活と関連付けたりしながら、振り返りを行うことができている。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	さいたま市学習状況調査(5月) <小1～中3> (11～12月)	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	全国学力・学習状況調査の結果から、(1)については、複数の情報を比較したり関連付けたりして考える力に依然として課題が見られるため、引き続き指導・実践を継続していく。(2)については、主体的に学びを振り返っている児童が多いことから、日々の授業において「学びのシンキングサイクル」や学びメーターを活用した振り返りを継続して実践していく。
	B	↓
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所